

小山総長を迎えて

＝ 平成5年度県支部総会 ＝



74人が出席
大いに盛りあがる



■発行
早稲田大学校友会
鹿児島県支部
■住所
鹿児島市金生町3-1
山形屋本部秘書室
☎0992-27-6310(代)



平成5年度早稲田大学校友会鹿児島県支部総会が、去る九月十八日(土)山形屋文化ホールで開催されました。例年七月に開催されていましたが、本年は小山総長を迎えたいが、本年は小山総長をお迎えするため、総長のスケジュールに合わせて九月開催となりました。今年は夏の豪雨災害のあとで心配されましたが、ようやく落ち着きを取り戻した感じで校友七十四人が参加しました。

松元支部長の挨拶、大西幹事長による総会議事のあと、小山総長の早稲田の近況についてお話がありました。とりわけアメリカのクリントン大統領の大隈講堂での話など興味深いものがありました。

総会終了後は懇親会に移り、校友の田原実さん率いるココパーム

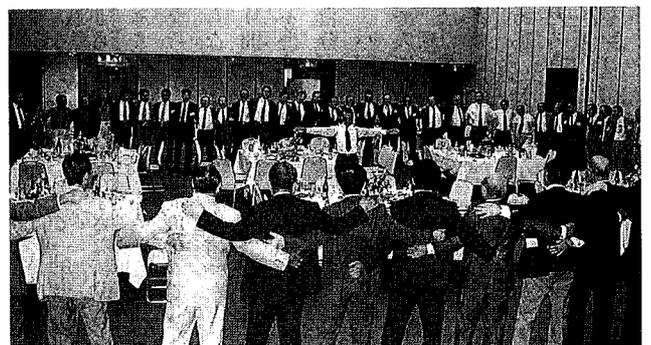
出席者

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 大西 洋逸 | 川畑 孝則 | 田中 幸夫 | 藤安 俊夫 |
| 上原 一治 | 上川路長生 | 月田 好彦 | 橋口 幸夫 |
| 尾堂 友紀 | 菊池 龍夫 | 土田 充義 | 仏 浩 |
| 大武 進 | 上片平良介 | 田中 徳義 | 松元 茂 |
| 赤星 多香 | 上片平一郎 | 田原 実 | 森 睦男 |
| 池浜 正雄 | 久保 英司 | 田中 健作 | 宮川 秀樹 |
| 岩切 久治 | 川内 博史 | 西園 靖彦 | 増留 貴朗 |
| 小野原 健 | 岸本 博之 | 中村 三郎 | 松崎 兼則 |
| 大迫 一輝 | 川窪 正昭 | 新原 晃 | 麦野 賦 |
| 赤尾 宣明 | 重吉榮五郎 | 西原 敦 | 三嶋 聡 |
| 大竹山 章 | 坂元左武郎 | 野見山洋子 | 室岡 晃 |
| 市来健太郎 | 佐藤 真昭 | 西迫 正紀 | 水埜 信行 |
| 始良 一徹 | 進藤 弘和 | 春田 陽三 | 吉田 守 |
| 越山 純雄 | 重野省三郎 | 春田 滋 | 吉田 清彦 |
| 栗山 良昭 | 杉浦 義昭 | 堀内 憲夫 | 米永 一義 |
| 寿 洋一郎 | 齊藤 祥三 | 平嶺 正春 | 山下 明彦 |
| 辛島 史朗 | 藤内 政男 | 濱田 馨 | 米盛庄一郎 |
| 香西 政彦 | 田平 暢志 | 浜田 紘一 | 山根 京章 |
| 郡山 節郎 | 豎山 博美 | 春田 正美 | 吉田 和夫 |



スの演奏や抽選会など例年にもまして、盛り上がりがありました。

報告 事務局長 川畑 孝則
(S46年商学部卒)
南生建設(株)専務取締役



日本経済への特效薬

日本開発銀行鹿児島事務所調査役

鍋山 徹 (S57年法学部卒)



今年の四月に鹿児島に赴任して何が変わったかって、なんといつでも通勤時間ですよ。東京では一時間半、今は自転車で十分ですから。それにグルメ街、良いですね。あれだけ水準の高いレストランが軒を並べると楽しくなります。五十万人都市だからでしょうか？イギリスの経済学者トマス・マルサスが「人口論」で言ってます。都市人口は五十万人が理想的…どうしてって、犯罪も少ないし、自

然もそれなりに残っているし、えっ？でも灰が降るって。そうなんです。鹿児島に来て一度もその恩恵に浴してませんが、五十万人の火山都市で暮らせるなんて光栄です。それに私事でなんですが、黒神町の上にある鍋山、親近感持ちます。とりとめもないことを書いてしまいました。折角ですからまじめな話を一つ。適当な言葉で〇〇と△△を埋めてみてください。賢明な諸氏には簡単かも知れませんが。

現在の不況には二つの要因がありますね。一つは今年の春に某専門誌に掲載されて話題になった技術革新終焉論と、もう一つはアジアの〇〇〇〇です。だから日本経済のこれからは大変なんですよ…ヒント。石油危機で中近東にオイルマネーが集まって大不況になりましたね。でも干支が一巡して原油価格が元に戻ったから一安心、日本経済もまた息を吹き返しました。しかし今度の〇〇〇〇は元に戻ることはない。大変です。

ついでにもう一つ、それではどうすればいいか。特效薬はただ一つ。△△△をバブル以前のまともな水準にすることです。不動産や株は大幅に下落したなかで、唯一下落せずに異常な状態のままなのは？…ヒント。ジュリアナ。もひとつヒント。この特效薬をつくるには経営者の英断というお許しが必要なんです。バブルを演

出しても未だに何の責めをも負わぬ彼らがOKを出すわけがない。それでジュリアナええじゃないか現象が巷にはびこり、晩婚化が進み、人口は急減(少子化を防ぐには△△△しかないでしょう)し、

ハゲのこゝと

季刊ミニ冊子「M2タイムス」編集人

福田 千鶴子 (S54年第一文学部卒)



ハゲは早稲田の劇研の同期である。エキセントリックな連中の多い中では数少ない穏健派で、頭も良かったので、同期や上級生に一目も二目も置かれていた。東京っ子の常で、照れ屋でヒネていてそれでいて親切で、いいヤツだった。

卒業後、同期の六人で池袋のシアターグリーンで芝居を打ってからは、ずっと会う機会がなかったのだが、二年ほど前、家族で上京した時に夕食をご馳走してくれて、久々に会うことができた。

なにせ、十九でハゲとあだなされるくらいだから、当時から結構

おじ捨て山がゴルフ場のように全国に至るところにできて…くわばらくわばら。

〇〇〇に気づくのが遅れて、△△△をやらなきゃ、明日の日本経済はありません。この他に何か特

来ていたわけだけど、その時には「来ている」と言うより「過ぎていく」という感じ。あご髭のせいもあって、まるで斎藤道二みたいだった。

当時、ハゲは大手情報誌の会社を身体を壊して退職、そこそ健康も戻ってきた、医療系の雑誌から誘われてから再就職しようかというところだった。

学生時代の友達は、卒業後のあれこれは一気にとぼして昔に戻ってしまふ。ハゲと、もう一人の友達と三人、主人と子どもはそつちのけであれこれ話し込んでの別際、今度はいつ会えるかわからないという気がして、ついつい学生時代のノリでヒシと抱き合い、「ハゲ、新しい仕事頑張ってるね」「ちずも元気でな」と肩をたたきあっていたら、次女が怯えたような顔を

してこつちを見ていた。

それから半年位してハゲから電

効薬があるとお思いの方、是非教えてください。お願いします。

話が来た。仕事で長崎に来ているとかで、お互いの近況報告や友達のうわさ話の後で、ハゲに「ものを書け」と言われた。「金になってもならなくても、おまえはものを書くタイプの人間なんだ」と熱心に勧める。何の脈絡もなく、いきなりだったのでびっくりしたけど、三十もとうに過ぎ、誰にも期待されないオバサンである私に、頑張れとエールを送ってくれる友達がいることが身に沁みて嬉しかった。

それがきっかけではないけれど、いろんな経緯があつて一年ほど前から数人の仲間と小さな新聞もどきを作っている。もちろん金にはならない。でも「金になってもならなくても」とハゲが言ったとおり拙いながらも自分の言葉で文章を書くことで今まで見えなかった自分が見えてくる気がする。

ハゲは相変わらず、精神を病んで入院を繰り返している。優秀だった友達が駄目になっていくのを見るのは辛い。一人っ子だったから、ご両親の心痛はいかばかりだろう。またいつか元氣なハゲに会ってたくさんバカ話したい。

私の原風景

鹿兒島銀行本店営業部個人融資課

市來 健太郎 (H5年法学部卒)



グリークラブでの四年間、それは私の原風景だ。私はクラブでコンサートのマネジメントを取り仕切っていた。サントリーホールを埋め尽くす満員の聴衆、ジャンルを越えた一流アーティストとの共演、全国演奏旅行…。華やかな舞台の

影には人知れぬ苦労がある。度重なるコンサートは私の睡眠時間を削った。

クラブ以外のことには脇目もふらずに四年間が終わり、私には思い出だけが残った。過ぎ去れば夢の跡。一年中スケジュールに追いまくられてつくり上げ、まるでピールの泡のように消え去ったコンサート。「私はこれからの長い人生を使って何が残せるのか」。私の歩いてきた道標はどこにあるのか。考えた末に、「しっかりと根をは

やして地域づくりに参加したい」と切に思い、故郷での就職を決めた。四月になり、希望に燃えて新しい人生を歩き出したが、六年間の東京生活は私と故郷の距離をずいぶんと遠ざけてしまっていた。

仕事も思うようにいかず、自信喪失気味の私に、最も大切な原風景を呼び覚ましてくれたのが、復旧現場での手伝いだ。八月の豪雨は県内に大きな傷跡を残し、県史に残る日となったが、同時に、私が「あの頃」の魂を取

り戻し、将来への情熱を抱いた日として、忘れようにも忘れられない日となった。

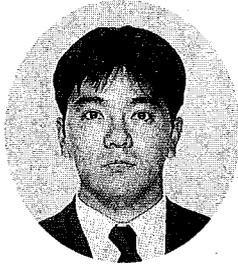


雑草

南日本新聞社 事業局

西青木

亨 (H5年社会科学部卒)



最近僕が所属するラグビーのクラブチームにティム君というニュージーランド人が入ってきた。最初に見た印象は「でけー(大きい)」だった。優に二九〇センチ以上はある。聞くところによると実家が牧場で牛を四百頭も飼っているということだ。「そりゃあ、ああなる

のは当然だ」と納得しつつ、先ずはコミュニケーション。ところがこれがなかなか通じない。天下の早稲田に五年も通ったのに、である。「芝生のグラウンドはないか」と問われ、「雑草のそれならある」と答えたかったのだが、雑草が思い浮かばず、思わず「Wild Grass」などと口走ってしまうような調子である。ただ、こういったロールプレイング的な事はかなり楽しい。ぼくらには大きなキーワードがあるのでなおさらだ。それは言わずと知れた「ラグビー」である。

僕はかの有名な体育会ラグビー部の出身で、このスポーツをこよなく愛している。だからこれを話題にすることで何とかコミュニケーションを取れる。もしこれで、英語力が向上するなら一石二鳥というやつだ。

さでさて、どうやら今年の早稲田のスポーツは調子がいいらしい。駅伝や野球が優勝している。わが愛するラグビー部はどうだろうか。どうか頑張ってほしい。

僕は鹿兒島弁とティム君のNZなまりの英語という何語だか分からない言葉で、ラグビーをキーワードにコミュニケーションを取り、早稲田という名前を覚えてもらうと思う。

「貧乏クジを引いてしまったな」。私たちは内心そう思いながら土砂をかき出していった。

八月七日、私と四人の同僚は、前日の豪雨で大きな被害に遭った池之上町で復旧作業を手伝っていた。ひざまであるうかという土砂はとても一日やそこらでかきだせる量ではなく、作業は思うようにはかどらない。しかし、私は「おれがやらなきゃ始まらない」と思い、一生懸命にシャベルを動かす。私の熱意を感じ取った同僚の動きにも熱が入る。気が付くと土砂は二時間ほどでなくなっていた。その日の夜、心地よい疲労感に包まれた私の脳裏に浮かんだのは、大学のグリークラブ時代の思い出だった。復旧現場で私をつき動かしたのは、久しく忘れていたグリー時代のひたむきな情熱ではなかったか。

学生気分を満喫

第一回 稲門会 三田会 合同交歓懇親会



第一回稲門会・三田会合同交歓懇親会(豎山博美実行委員長)が十一月二十六日、両校合わせて約百五十人のOB・OGが参加して山形屋ファミリーストラランで開かれた。

五月十六日に川内川で行われた川内市民レガッタでの早慶戦がきっかけとなり、松元茂早稲田大学校友会鹿児島県支部長、上野喜一郎慶応義塾鹿児島三田会会長の呼び掛けで実現したものだ。これまで両校対抗のゴルフコンペは度々実施されてきたが、合同交歓会は今回が初めて。

校旗・塾旗入場に始まり、両校

応援部OBのリードによる校歌斉唱の後、アプローチゲーム、「紺碧の空」「若き血」などのカレッジソング歌合戦と、最後の「エールの交換」まで両校とも久しぶりに学生気分を満喫し互いに親睦を深めた。

報告・実行委員 辛島 史朗

(S55年法学部卒)
南日本新聞社総務局

健闘及ばず、7連敗

＝第18回早慶対抗ゴルフ大会＝

慶 応-521・6 早稲田-534・8

開催日：平成5年11月14日

会場：喜入カントリークラブ

コンペ成績表

順位	氏名	OUT	IN	GROS	HDCP	NET
1位	山元正恒(K)	41	43	84	12.0	72.0
2位	秋葉重貴(K)	44	43	87	14.4	72.6
3位	玉川文生(W)	48	44	92	18.0	74.0
4位	新村研二(K)	41	44	85	10.8	74.2
5位	大西儀朋(W)	42	47	89	14.4	74.6
6位	吉田守(W)	45	43	88	13.2	74.8
7位	堀内憲夫(W)	46	47	93	18.0	75.0
8位	上妻利久(K)	50	49	99	24.0	75.0
9位	中尾成昭(K)	55	53	108	32.4	75.6
10位	柴立鉄彦(K)	43	45	88	12.0	76.0
11位	石原石(K)	47	46	93	16.8	76.2
12位	田貫敦也(K)	44	49	93	15.6	77.4
13位	尾堂友紀(W)	52	51	103	25.2	77.8
14位	馬場弘人(W)	42	40	82	3.6	78.4
15位	中江和彦(K)	51	45	96	16.8	79.2
16位	田中健作(W)	56	47	103	22.8	80.2
17位	岩元恭一(K)	48	47	95	14.4	80.6
18位	下唐湊行雄(W)	51	48	99	18.0	81.0
19位	出口克次(K)	47	49	96	14.4	81.6
20位	内村二郎(K)	60	58	118	36.0	82.0
21位	大西洋逸(W)	55	49	104	21.6	82.4
22位	田中幸夫(W)	70	77	147	36.0	111.0

「今回のコメントは、かんべんして下さい」

幹事 大西 儀朋

鹿児島海陸運送(株)取締役



支部総会から日も浅く、その参加者が心配された三田会との合同交歓懇親会でしたが、総会を上回る校友(約80名)が参加し大いに盛り上がりました。来年がまた楽しみです。

会報委員

吉田 守 久保 英司
辛島 史朗 大西 儀朋
岸本 博之

編集後記